（様式１）

令和５年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	髙　山　　幸

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・51 観点中、29 観点において目標値を上回っている。特に算数において、目標値を下回った観点が８観点から３観点に減るなど、基礎学力の定着が見られる。 ・国語において、「文章を書く」設問では、５学年中４学年が目標値以上である。どの教科でも「書く」学習を取り入れ、継続指導してきた成果と考える。	・５年生の理科において、教科の正答率は「基礎」「活用」ともに目標値を上回るが観点別正答率では３観点中２観点で僅かに下回る結果である。４年生も同様の傾向が見られる。知識の教え込みではなく、児童の思考を意識した授業改善(裏面記載)に取り組む。 ・漢字の習得において、２年生以外は目標値を下回る。「書く」活動を通して、漢字の書き方及び使い方を身に付けさせていく。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・「授業中グループで話し合う時間がある」や「話し合う時間が楽しい」の項目で、８０％以上の児童が肯定しており、探究的な活動を重視した授業に取り組んできた成果だと考える。 ・「勉強の様子」に関する項目を昨年度と比較すると、高学年において肯定する割合が伸びている。学習活動が明確であること、学習規律が定着し始めていることが成果だと考える。	・「発言・発表している」の項目では、肯定する児童が６０％であり、自信をもって表現することにはやや消極的であるといえる。成功体験を自己肯定感につなげるために、教師が児童の成長を価値付け、自信をもたせていく。 ・学習規律の定着がまだ十分とはいえない。学習規律の確立とともに、タブレット端末を活用した家庭学習を中心に日々の学習状況の把握を行いながら、個別に指導する。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験的な活動や探究的・問題解決的な学習を計画的に実施している。 ・タブレット端末（学習アプリ）を活用した家庭学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・タブレット端末による反復学習と探究的な学習の積み重ねにより、学習を深めている。	・自分の意見に自信がもてず、表現することに抵抗を示す児童には、発表方法（書く・タブレット端末活用等）を工夫し、児童に自信を付けていく必要がある。 ・家庭学習に取り組むことができていない児童には、保護者と連携を図り個別の指導を行う。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）全教科・領域において、自分の考えを書く活動を取り入れた授業づくり

学習問題・学習課題を自力解決する場面や検証結果から考察する場面、振り返りの場面等で、自分の考えや分かったことなどを書く活動を適宜設定し、文字で表現する力を伸ばしていく。また、書いたことを発表につなげることで、児童が自分の考えに自信をもてるようにしていく。

国語においては、「書く」活動を通して、学年に応じた漢字の「読み・書き・使い方」を習得できるよう指導を行う。更に、意見文や報告文等、その目的に合わせた文章を書く時間を設け、様々な場面に応じた表現の方法を身に付けることができるようにもしていく。校内研究教科である国語を中心に、読み取った内容を表現する力も養っていく。

（２）探究的、課題解決的な学習について全教科での展開

生活科の指導教諭を中心に、教師が一方的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問、体験的な活動を大切にし、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに創り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が他者と協働して、直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

（２）理科において、児童の思考の流れを意識した授業改善

教師主導で教科書の内容を教え込むのではなく、次のような学習の流れを大切にする。

① 単元の導入時に、学習につながる興味や意欲を高める工夫

② 児童の気付き、疑問から学習課題を設定　　③学習課題に対して根拠をもっての結果予想

④ 児童の考えた予想の検証方法の検討　　⑤実験や観察等を通しての検証

⑥ 検証結果から課題について分かることの考察

これら、児童の予想・仮説を基にした実験・観察を通して、理科の思考力を高める。また、単元の終わりに日常生活にフィードバックしたり、タブレットドリルやふりかえりシートを活用したりすることで、既習内容（主に知識・技能）の定着を図る。

（４）学力向上部における組織の活性化と充実した取組、各層の児童に応じた取組の強化

① 令和６年１～３月に、当該学年の振り返りを全学年実施する。（タブレット端末、プリント等）

② 学習状況調査結果の、S-P 表に基づいた前学年の復習を行う。

③ タブレット端末、ふりかえりシート等を活用し、各学年終了までに身に付けさせたい基礎学力を共通認識の基で取り組む。４５分間の授業時間を効率よく活用する。

１学年：10 の合成、ひらがな、カタカナ、繰り上がり、繰り下がり

２学年：かけ算九九　　３学年：わり算、ローマ字　　４～６学年：四則計算

※タブレット型端末を用いた家庭学習を、全校で実施する

３　「令和６年度　墨田区学習状況調査」における目標

・低中学年はＤＥ層の割合を 20%以内、高学年は現状より 5%減とし、ＢＣ層の割合を増やす。

・理科の全観点の正答率を全国平均、もしくは目標値と同等程度にする。

・国語の記述式の問題に対し、無回答の児童を 15%以内にする。